

近世城下町「名古屋」の中の「熱田」

神道史学会々員 細谷 公大

狙い…現在名古屋に包摂されている「熱田」は、十七世紀初頭のいわゆる「清須越」によって城下町名古屋が出現する以前から「都市」として存在したことはよく知られている一方で、その成り立ちや変遷、具体的な都市景観については、資料が少ないことからこれまで余り言及がなされてこなかった現状がある。発表では、十六世紀前半頃の都市熱田を描いたものとされるものの分析がなされて来なかった熱田神宮所蔵「熱田神宮古絵図（残闕）」・同「熱田神宮境内図（享祿古図写）」・徳川美術館所蔵「熱田社古図屏風」の「絵解き」（分析）を基に十六世紀前半頃の都市熱田の様子を確認し、それを踏まえて近世城下町「名古屋」の中の「熱田」がどのような都市であったのか、について考えてみたい。

構成…一、東西日本の境界に位置する愛知・名古屋

二、「アユチ潟」から日本全国に影響を及ぼした「尾張氏」と熱田

三、熱田社の創始とその周辺

四、中世の熱田社の結界北限と近世名古屋城下町の南限「古渡」

五、中世の熱田社と中世都市熱田の景観

六、近世城下町「名古屋」の中の「熱田」とその後の展開

七、おわりに

「愛発関・不破関・鈴鹿関の東西で文化や環境の違う日本
⇒東西の分岐点として愛知県が存在する？」

アホ/バカ
カマド(暖かい)
「関西」 etc

愛発関
●
不破関
●
鈴鹿関
●

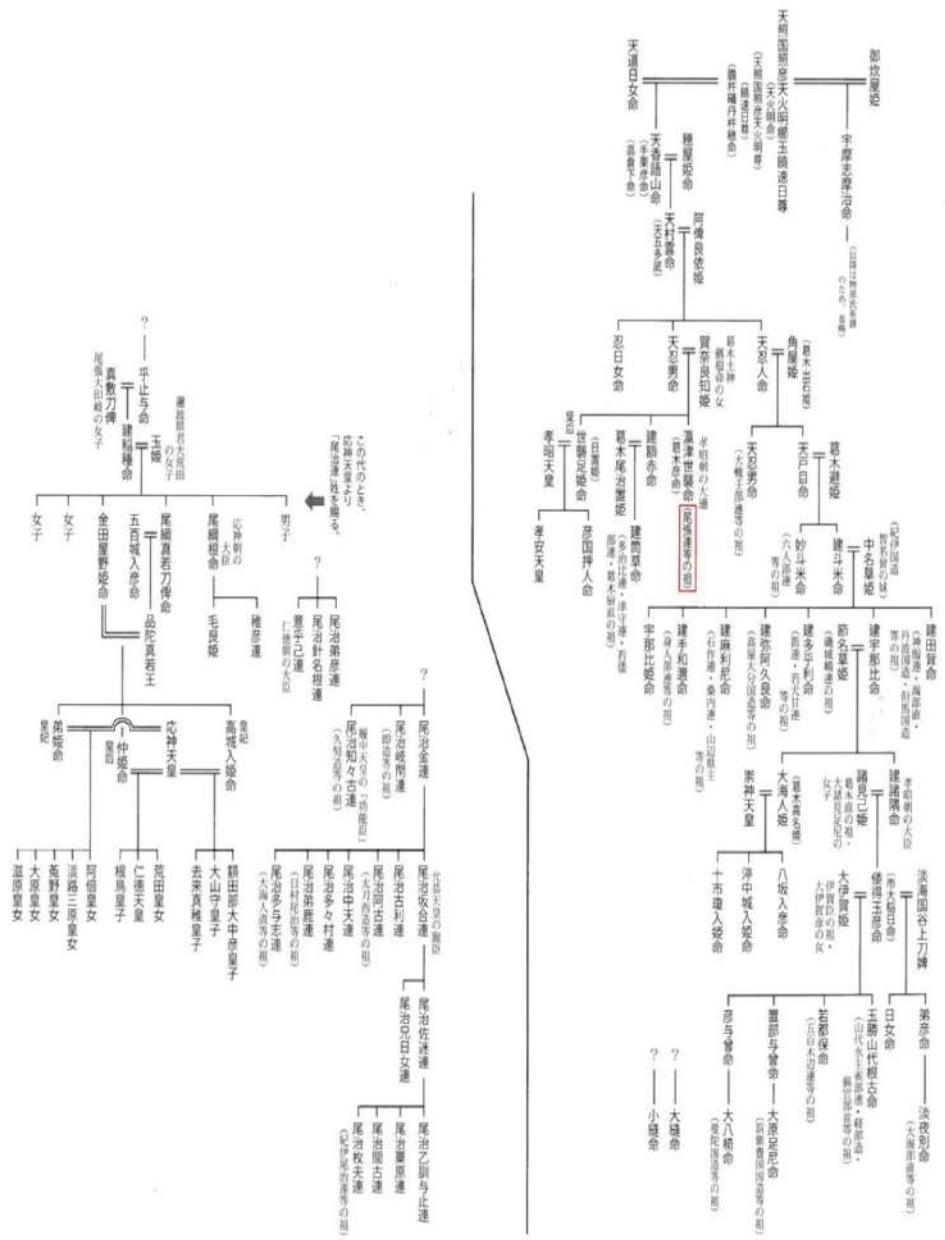
バカ/アホ
イロリ(寒い)
「関東」 etc

一、東西日本の境界に位置する愛知・名古屋



尾張戸神社

尾張氏祖神を祭神とする式内社（判明分）		
古代郡	神社名	祭神名
中島郡	真清田神社	天火明命
中島郡	小塞神社	天火明命
丹羽郡	宅美神社	天火明命
丹羽郡	針綱神社	尾張綱根・尾張針名根連命
春部郡	内々神社	建福種命
山田郡	尾張神社	天香山命
山田郡	尾張戸神社	天火明命・天香山命・建福種命
愛智郡	熱田神宮	建福種命・宮簀媛命
愛智郡	上知我麻神社	乎止与命
愛智郡	下知我麻神社	真敷刀婢命
愛智郡	孫若御子神社	天火明命
愛智郡	高座結御子神社	高倉下命
愛智郡	青衾社	天道日女命
愛智郡	針名神社	尾治針名根連命
愛智郡	成海神社	宮簀媛命
愛智郡	氷上姉子神社	宮簀媛命
知多郡	羽豆神社	建福種命



二、「アユチ瀉」から日本全国に影響を及ぼした「尾張氏」と熱田

『尾張氏☆志段味古墳群をとりあかす』（名古屋市博物館 平成24年）より引用

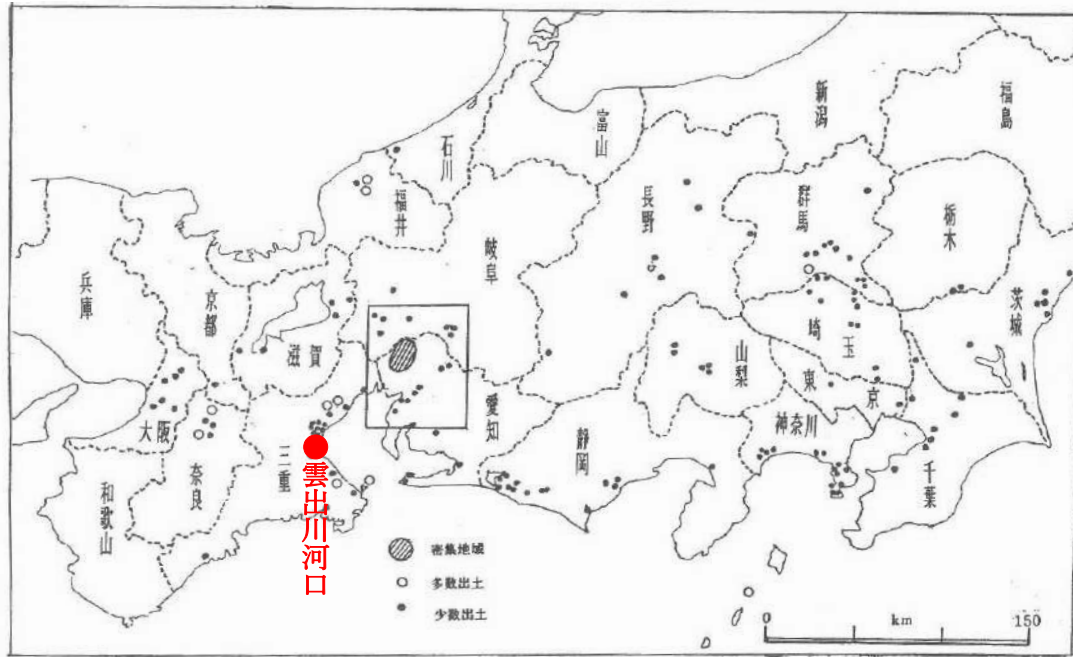
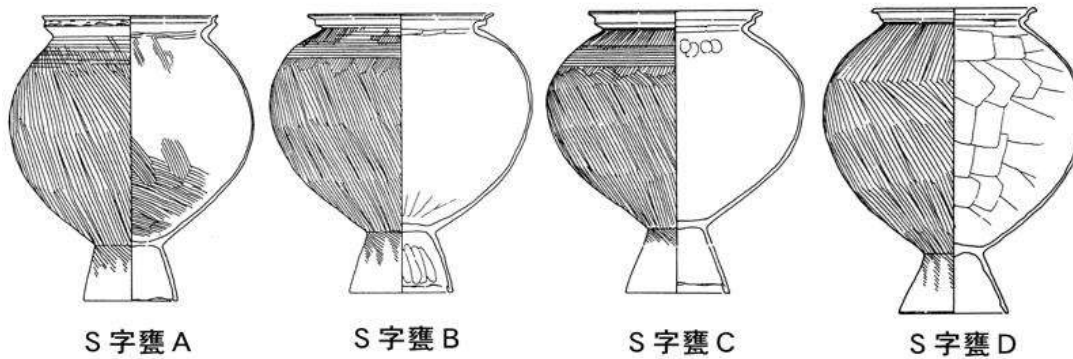
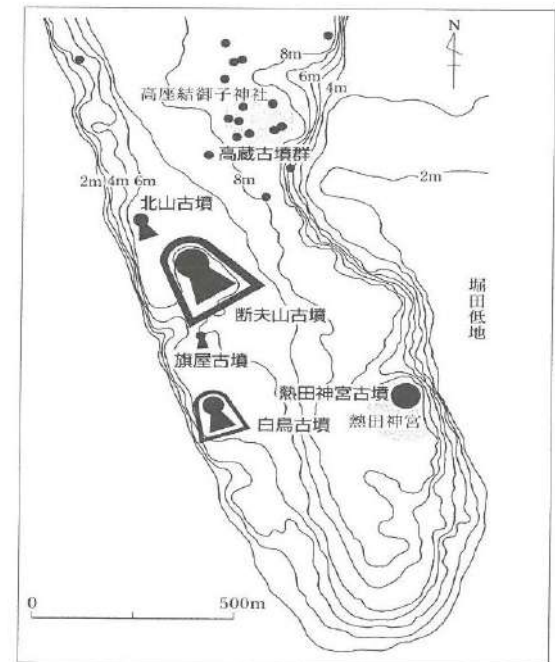


図9 S字口線カメ出土地分布図

三渡俊一郎『熱田区の歴史』（愛知県郷土資料館公開、平成17年）より加筆引用



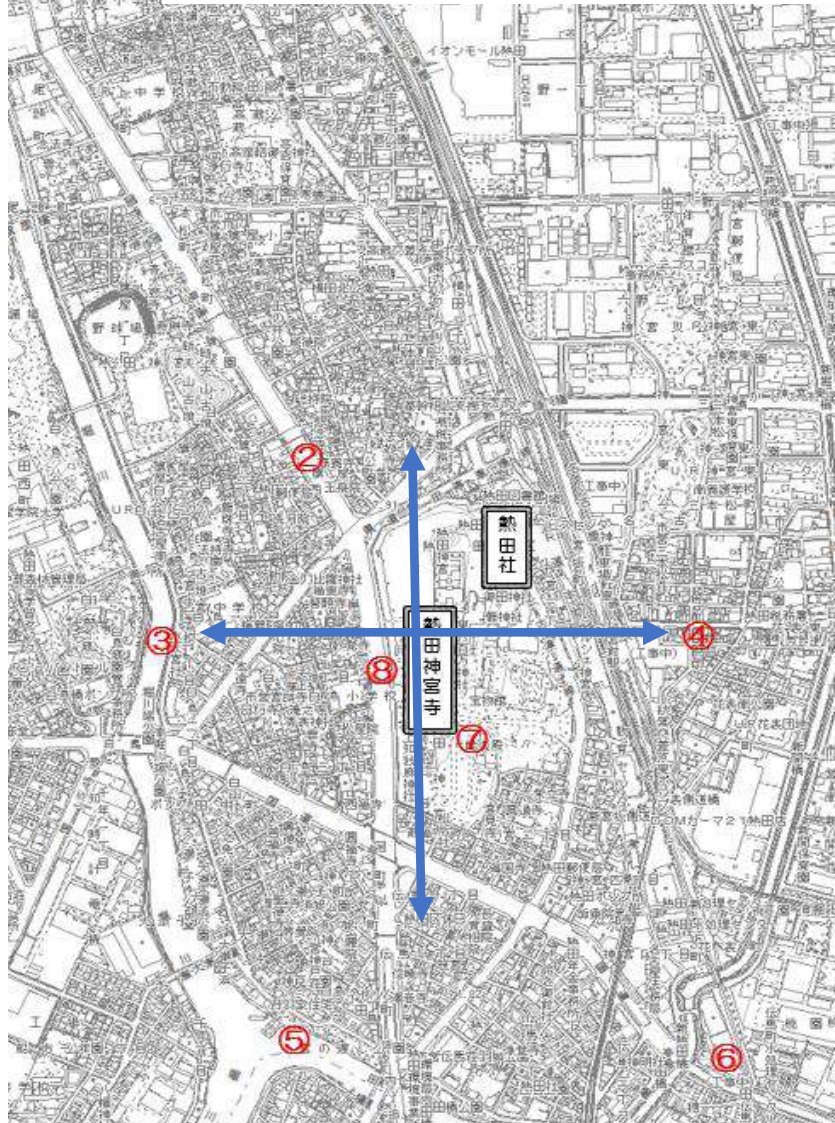
「S字甕研究室」(<http://ukigami.com/esuji/bunrui.html>) より引用



熱田岬の古墳(赤塚次郎氏作成) 県下最大の断夫山古墳は隣接する白鳥古墳などと伊勢湾に突きだした熱田岬に築造されており、海人との交流を背景に考える見方も強い。

『尾張氏☆志段味古墳群をとりあかす』（名古屋市博物館 平成24年）より引用

(1) 熱田社を取り巻く「八所之鳥居」の位置関係図



熱田社を取り巻く鳥居の位置図（「名古屋市都市計画情報提供サービス」より引用の地図に加筆）

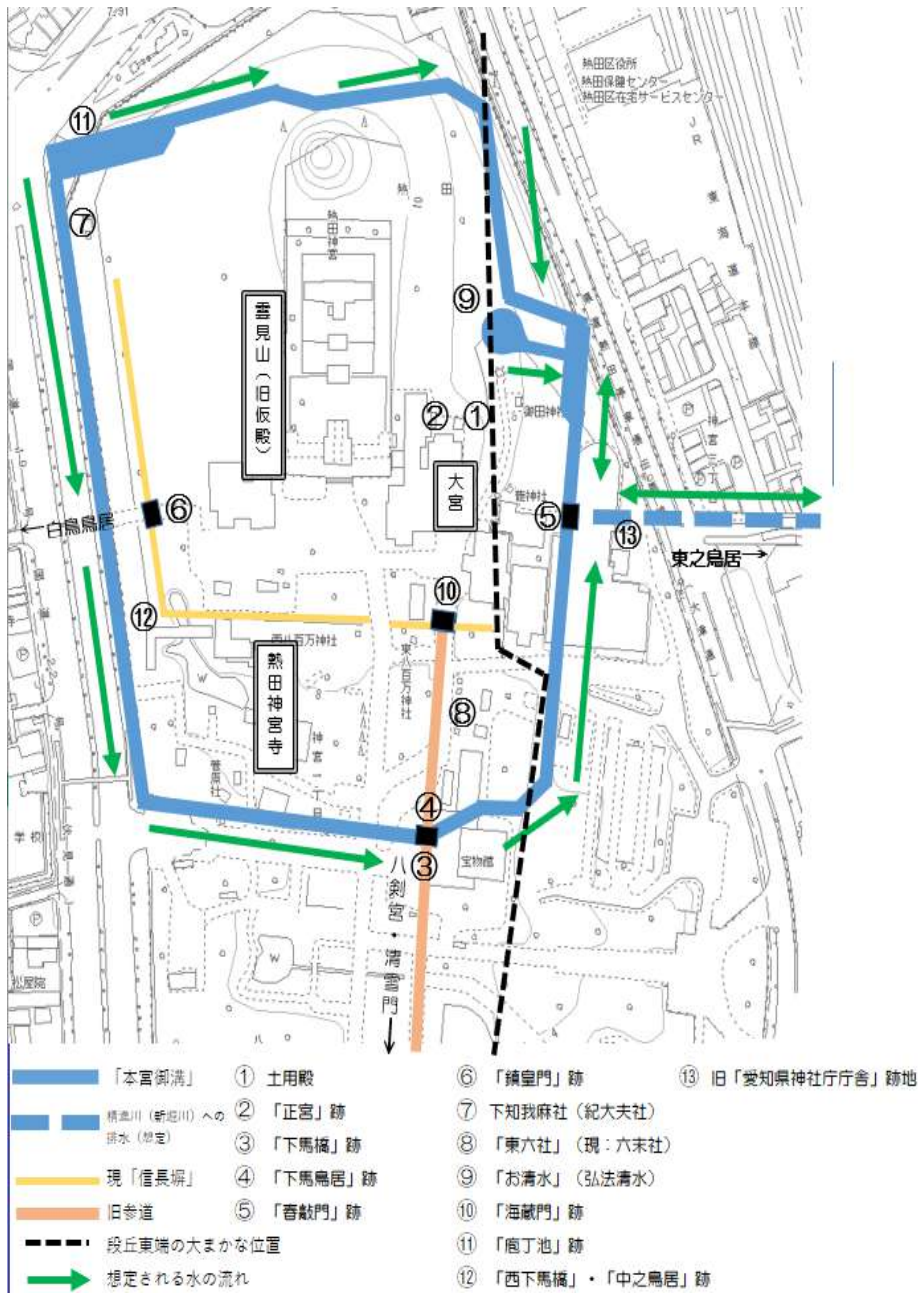
- ① 一之鳥居 ⑥ 南之鳥居
- ② 二之鳥居 ⑦ 下馬所鳥居
- ③ 白鳥鳥居 ⑧ 中之鳥居
- ④ 東之鳥居
- ⑤ 浜鳥居

※番号の位置はあくまで目安であり正確な所在地を表すものではない。

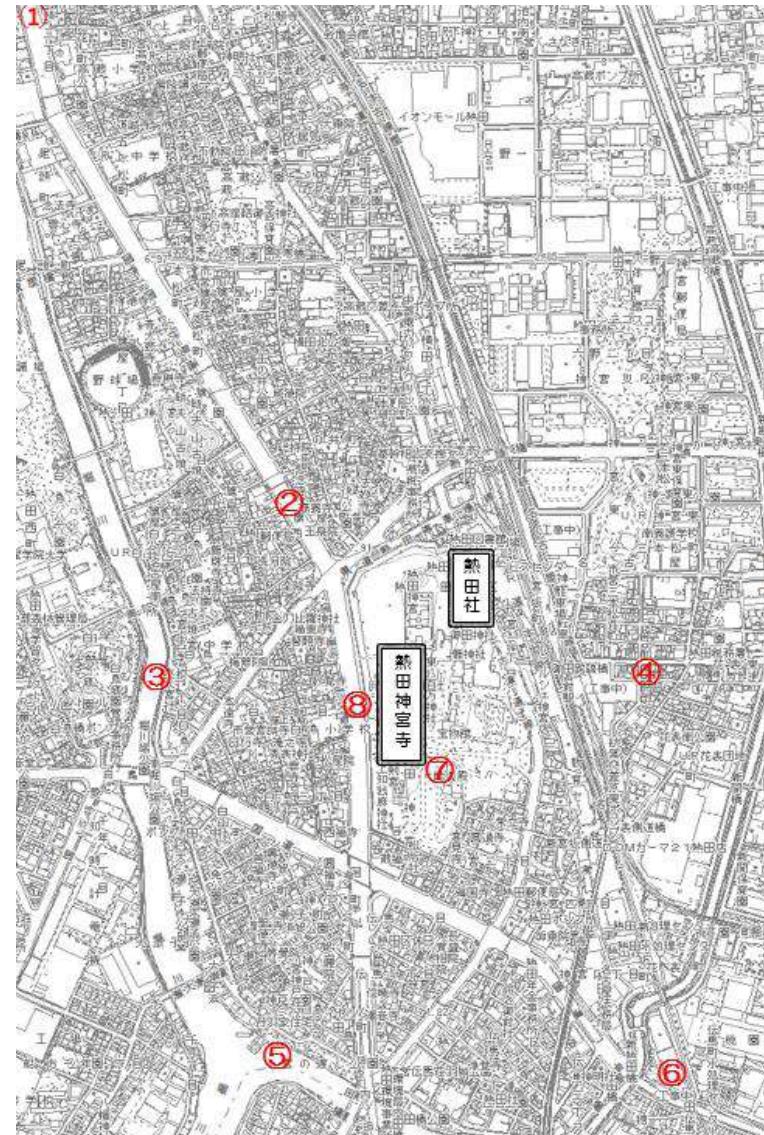
垂仁天皇	
景行天皇 (60年)	<p style="text-align: center;">↑ ↓ ヤマトタケル</p> <p>40年 ヤマトタケルの東征 43年 草薙御剣の創祀</p>
成務天皇 (60年)	<p style="text-align: center;">↓ 宮簀媛命</p>
仲哀天皇 (15年)	<p>元年 熱田神宮の創建 4年 氷上姉子神社の創建</p>
応神天皇	

三、熱田社の創始とその周辺

角田忠行の唱える熱田社創始関係事項略表



熱田社本宮・熱田神宮寺を囲む結界「本宮御溝」(本宮御堀)の復元図



熱田社を取り巻く鳥居の位置図 (「名古屋都市計画情報提供サービス」より引用の地図に加筆)

① 一之鳥居

② 二之鳥居

③ 白鳥鳥居

④ 東之鳥居

⑤ 浜鳥居

⑥ 南之鳥居

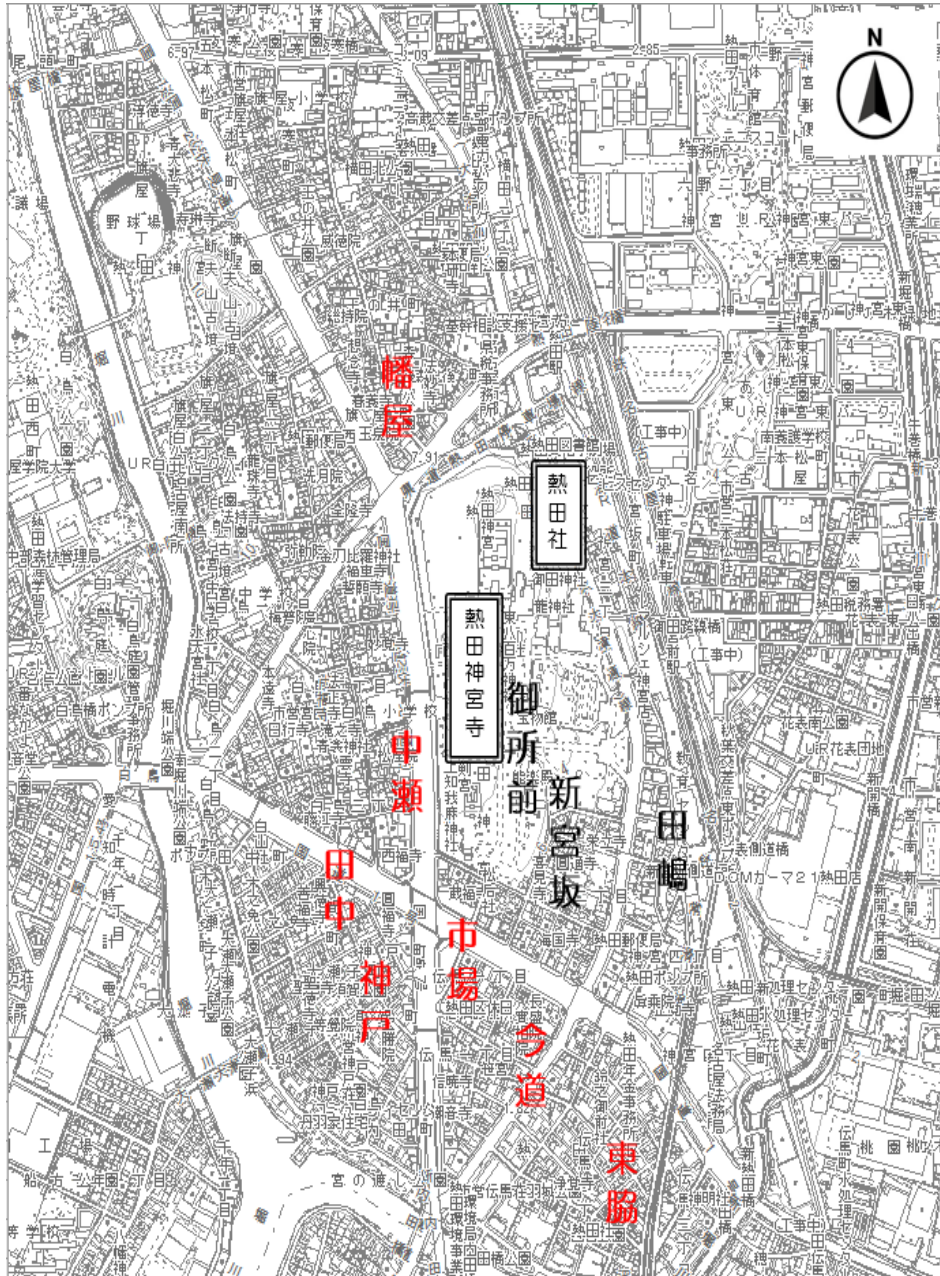
⑦ 下馬所鳥居

⑧ 中之鳥居

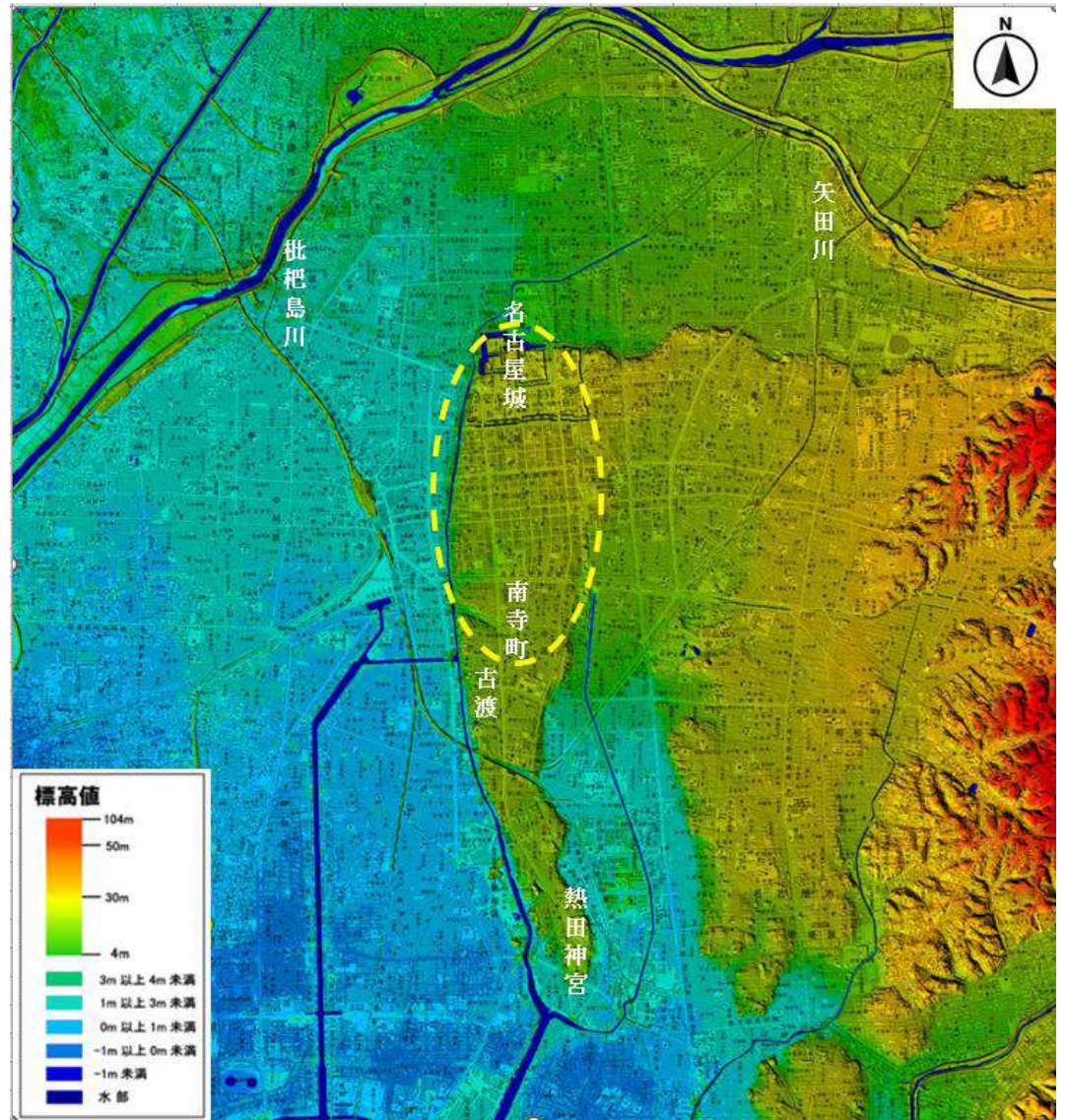
※番号の位置はあくまで目安であり正確な所在地を表すものではない。

熱田社を取り巻く「八所之鳥居」の位置関係図

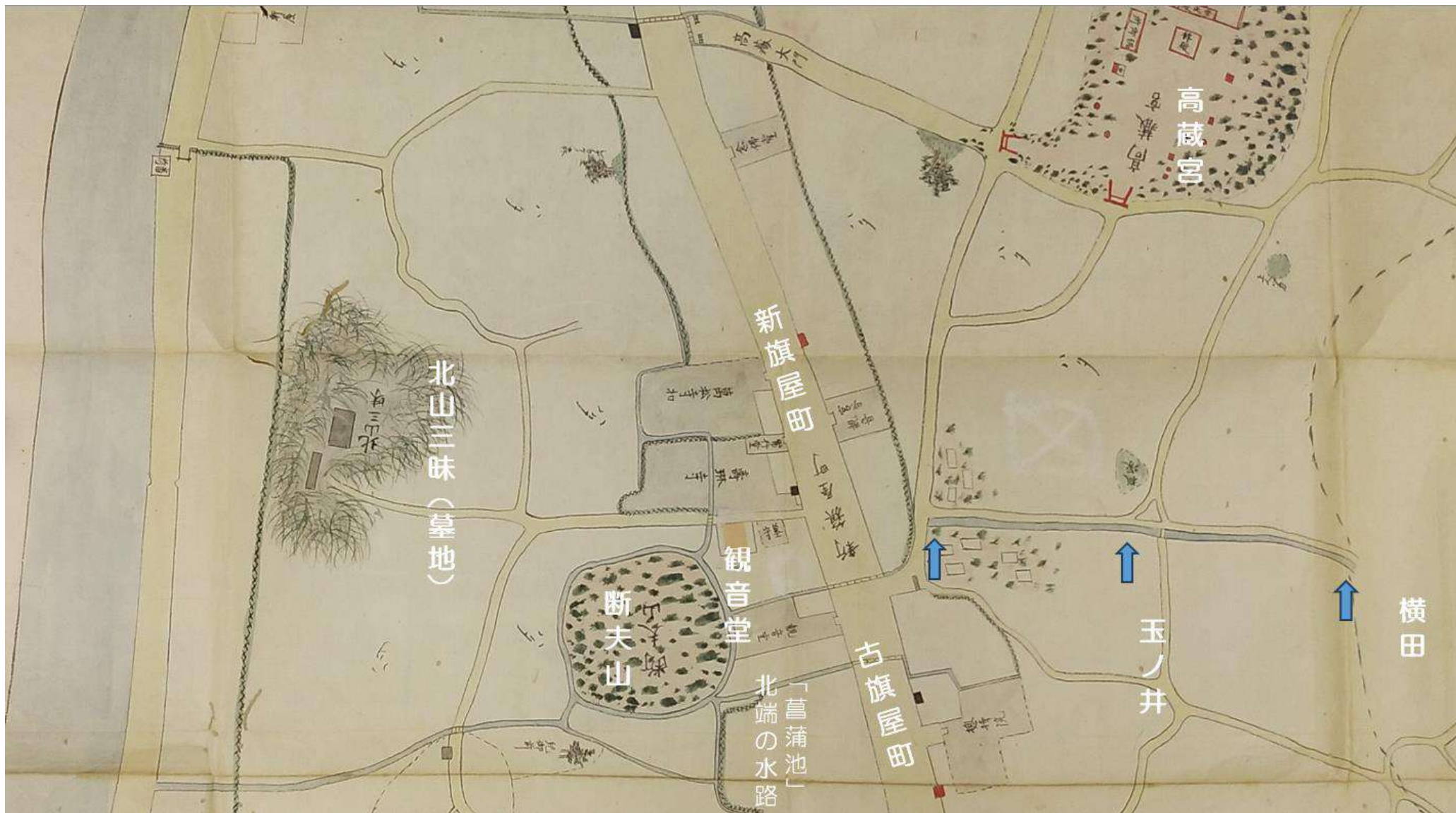
四、中世の熱田社の結界北限と近世名古屋城下町の南限「古渡」



赤字は15世紀中頃に確認できる地名(赤字)。黒字は江戸期に「熱田社神宮支配之地」であった地名(名古屋都市計画情報サービスより加筆引用)



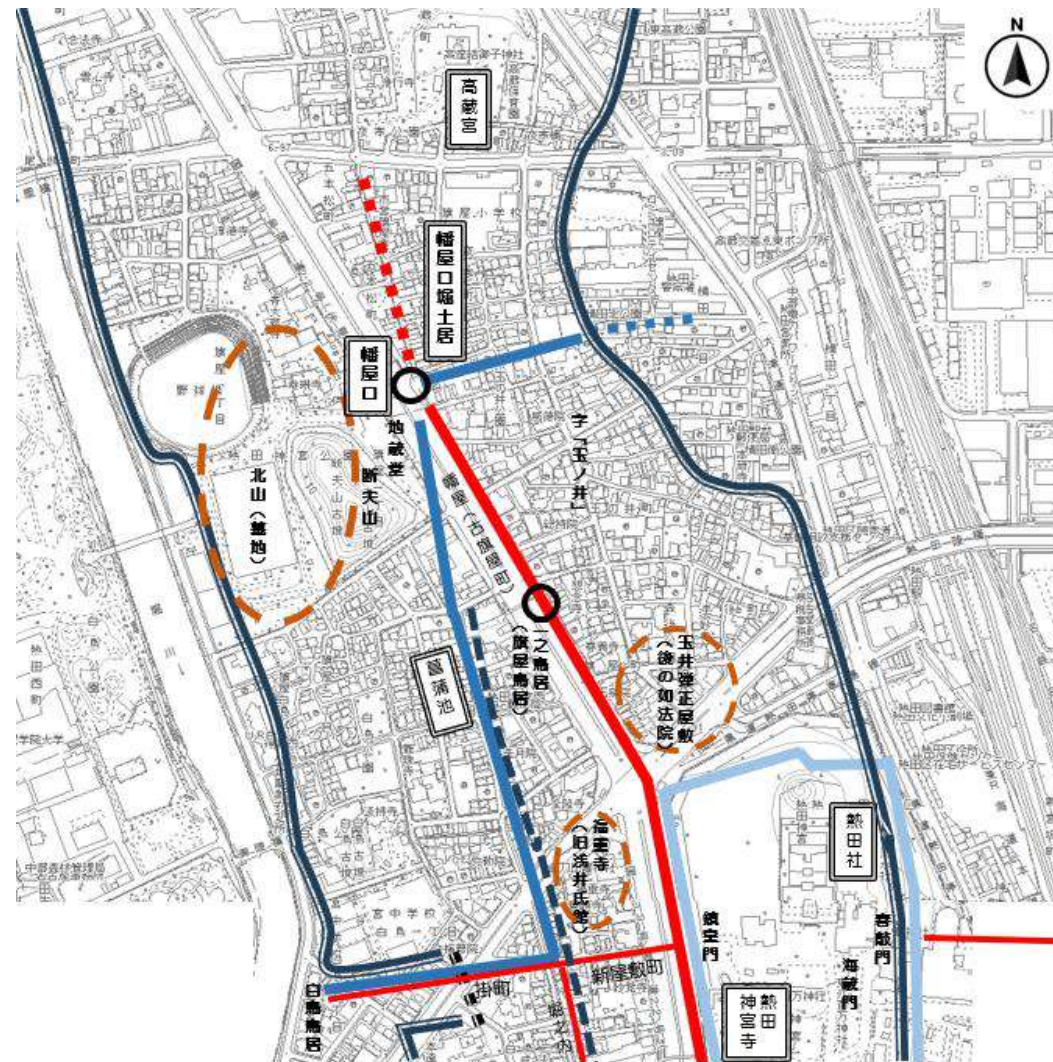
名古屋城に設けられる予定であった「総構」の範囲と周辺の位置関係図(国土地理院 デジタル標高地形図を一部加筆の上引用) 黄色破線は実際の名古屋城と城下町のおおよその範囲。



「熱田路見之図 (部分)」(文政年中 [1818~1830] 成立カ。熱田神宮所蔵) より加筆引用



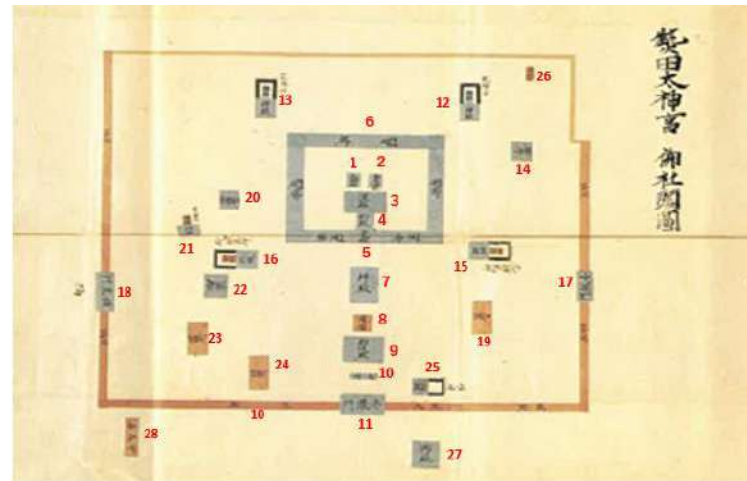
「熱田神宮古絵図（享禄古図）」（『熱田神宮名宝図録—宝物から見る歴史と信仰—』〔熱田神宮宮庁、平成27年〕より引用）



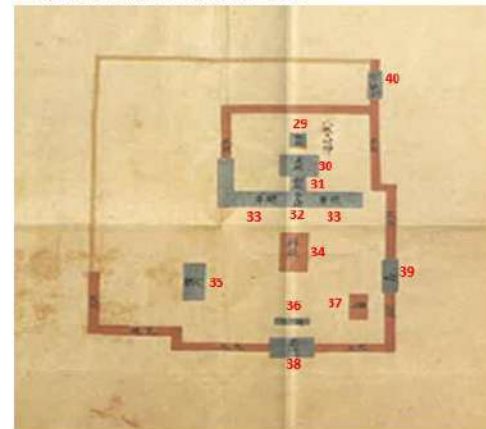
「本宮惣構」とその周辺（名古屋都市計画情報提供サービスより加筆引用）
但し今後の研究により変更する場合がある。

- 「本宮惣構」
- 「本宮御溝」
- 「熱田台地」の縁（これより外側は低地もしくは干潟）
- 「熱田台地」上段（熱田社・熱田神宮寺の法面）およそその西端（2～3mの段差）
- 主要街道・主要道

中世都市熱田の結界「本宮惣構」の復元図



「熱田本宮末社新絵図」に描かれた「本宮」



「熱田本宮末社新絵図」に描かれた「八咫大明神（八咫宮）」

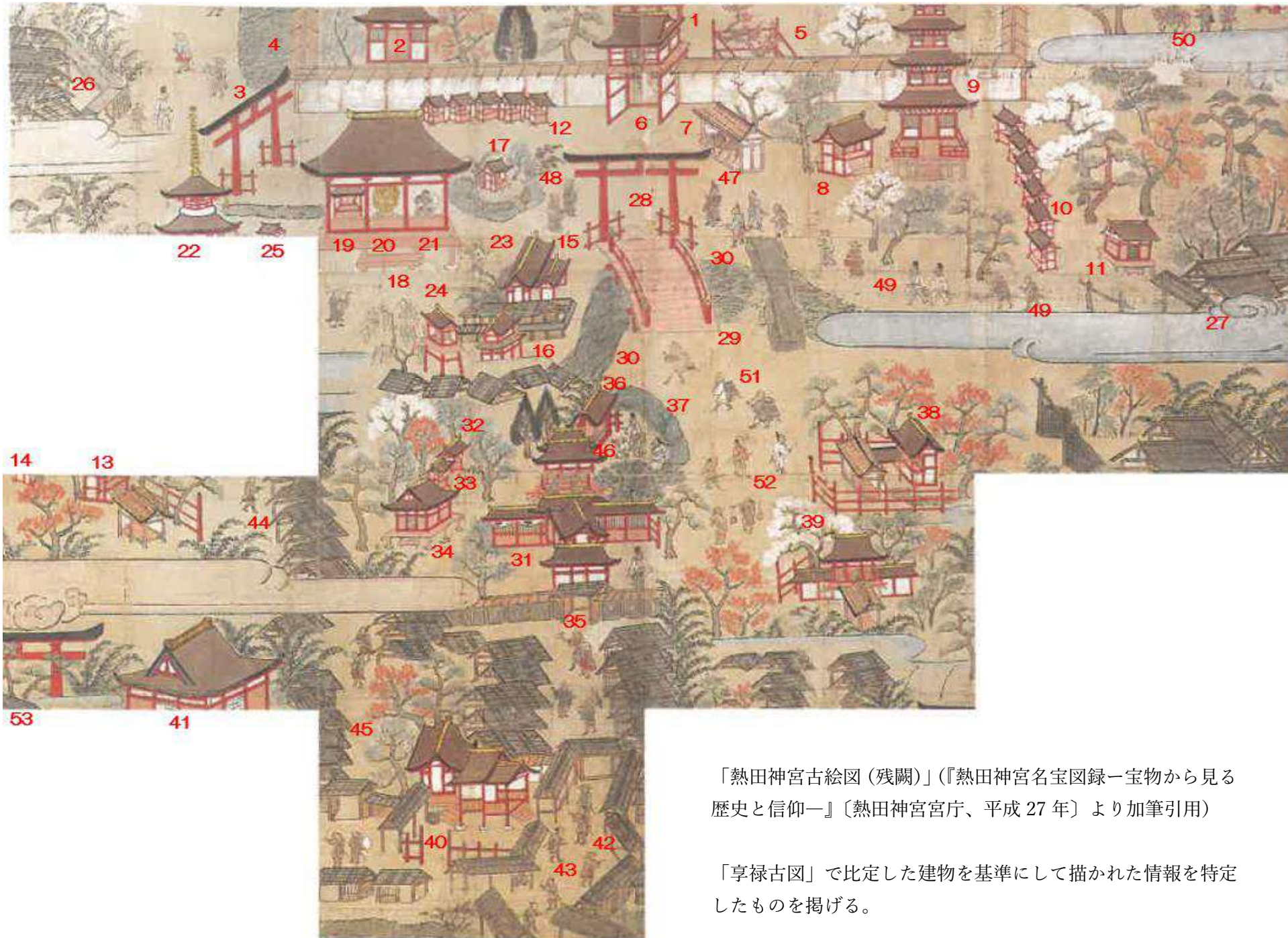
- 「本宮」
- 1 正御殿
 - 2 土月御殿
 - 3 渡殿
 - 4 釣殿
 - 5 祭文殿
 - 6 廻廊
 - 7 拜殿
 - 8 舞台
 - 9 勅使殿
 - 10 透垣
 - 11 海軍門
 - 12 能神宮
 - 13 一之御崎
 - 14 御井
 - 15 左八百萬神
 - 16 右八百萬神
 - 17 春鼓門
 - 18 鎮守門
 - 19 左庫所
 - 20 神輿部屋
 - 21 宝田社
 - 22 御蔵
 - 23 右庫所
 - 24 神楽所
 - 25 内天神
 - 26 清水社
 - 27 御殿
 - 28 中島屋
- 「八咫大明神（八咫宮）」
- 29 御殿
 - 30 渡殿
 - 31 釣殿
 - 32 祭文殿
 - 33 廻廊
 - 34 拜殿
 - 35 郵供所
 - 36 透垣
 - 37 庫所
 - 38 南門
 - 39 東門
 - 40 清雲門

五、中世の熱田社と中世都市熱田の景観

いずれも『熱田神宮史料』造営遷宮編上（熱田神宮宮庁、昭和55年）より加筆引用

「熱田神宮古絵図（享禄古図）」（『熱田神宮名宝図録—宝物から見る歴史と信仰—』〔熱田神宮宮庁、平成27年〕より加筆引用）

番号	比定建物等	「新絵図」 記載情報	「厚覧草」 退転記載	番号	比定建物等	「新絵図」 記載状況	「厚覧草」 退転記載	番号	比定建物等	「新絵図」 記載状況	「厚覧草」 退転記載
1	本宮	○		34	神廐	○		68	裁断橋	×	
2	土用殿	○		35	山王社	×	退転	69	御姥堂	×	
3	渡殿	○		36	五重塔	×	退転	70	精進川	×	
4	廻廊	○		37	東六社	×	青衾以外退転	71	氷上宮	×	
5	祭文殿	○		38	宮谷観音	×		72	浜鳥居	○	
6	拝殿	○		39	西六社（除青衾社）	×		73	南之鳥居（築出鳥居）	○	
7	勅使殿	○		40	青衾社（白衾社）	×		74	円福寺	×	
8	椎の木	×		41	供御所	○		75	今道の町並み	×	
9	籠神社	○		42	常行堂	×		76	市場	×	
10	一之御前神社	○		43	不動院	×		77	中瀬の町並み	×	
11	清水社（弘法清水）	○		44	神宮寺本堂	○		78	田中の町並み	×	
12	井戸	○		45	大福田社	○		79	沢観音堂？	×	
13	伝楊貴妃石塔	×	退転	46	二重塔	×	退転	80	海善院？	×	
14	経堂	×	退転	47	如法院	×	退転？	81	廻廊に番直する3名の神官	×	
15	東八百万社	○		48	鐘楼	×	退転	82	馬上の人物A	×	
16	西八百万社	○		49	東堂	×		83	袷用の人物Aの乗馬	×	
17	春敲門	○		50	西堂	×		84	馬上の人物B	×	
18	横田鳥居（東之鳥居）	○		51	下知我麻社（紀大夫社）	○		85	袷用の人物B	×	
19	御蔵所	×	退転	52	大宮司屋敷？	○		86	袷用の人物C	×	
20	籠所	×	退転	53	不明			87	高位の神官A	×	
21	輪蔵	×	退転	54	白鳥社・鷲峯祠？	×	鷲峯祠退転	88	高位の僧A・B	×	
22	宝田社	○		56	田島家屋敷？	×		89	高位の神官B・C	×	
23	乙子社	×	退転	57	下馬鳥居と袷用の人物A	×	退転	90	高位の僧侶C・D	×	
24	孫若社	×	退転	58	下馬橋（二十五丁橋）	×		91	椎の木東脇で拝礼する人物	×	
25	今宮社	×	退転	59	本宮御溝	×		92	回国聖A	×	
26	鎮皇門	○		60	八剣宮	○		93	回国聖B	×	
27	外天神	×		61	本地堂・供御所	○		94	回国聖C・D	×	
28	一之鳥居	○		62	八剣宮大門	○		95	市女笠を被った女1	×	
29	二之鳥居（旗屋鳥居）	×		63	清雪門	○		96	市女笠を被った女2	×	
30	中之鳥居	×	退転	64	南新宮	○		97	市女笠を被った女3	×	
31	下馬橋	×		65	日割宮	○		98	白鳥鳥居	○	
32	内天神	○		66	上知我麻社（源大夫社）	○		99	詳細不明鳥居		
33	海蔵門	○		67	鈴之御前社（鈴ノ宮）	○					



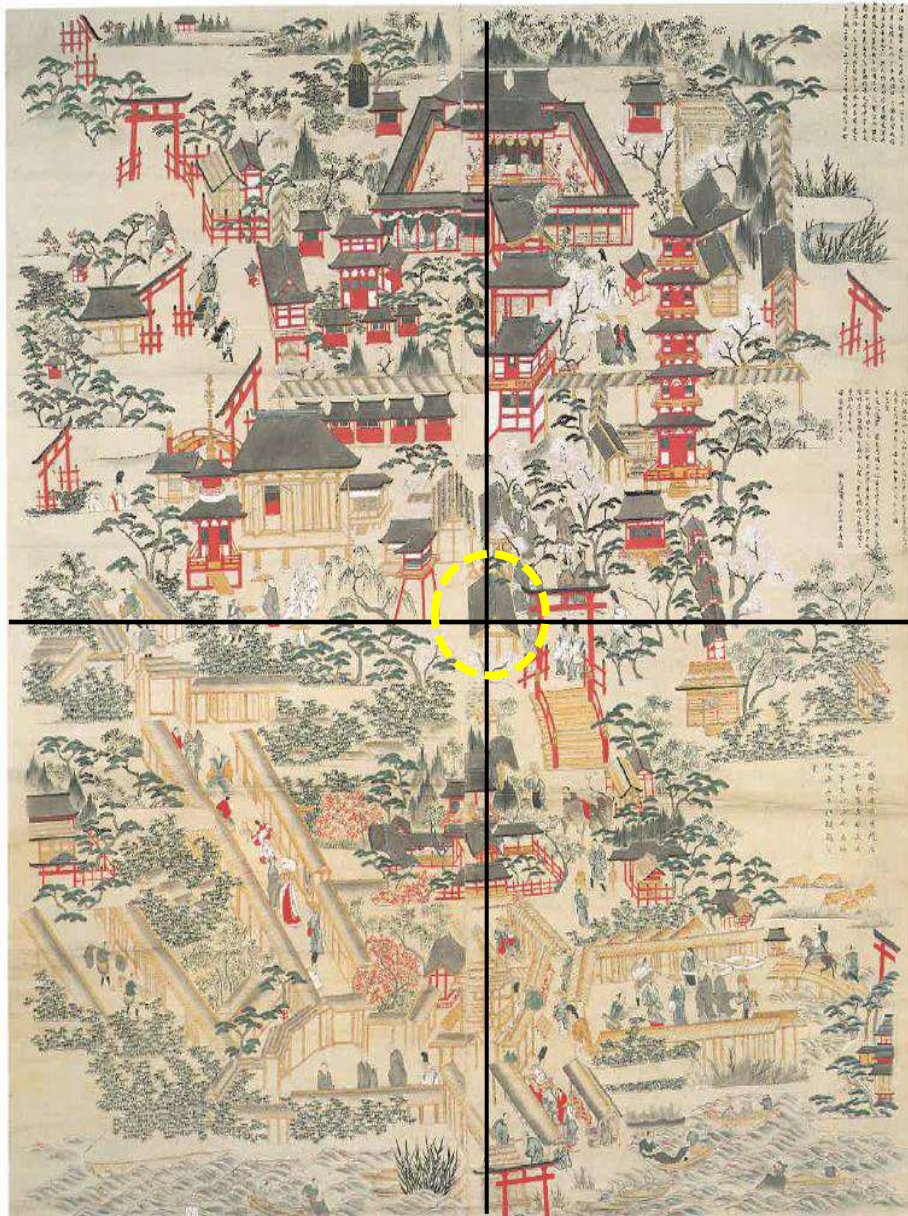
「熱田神宮古絵図（残闕）」（『熱田神宮名宝図録—宝物から見る歴史と信仰—』〔熱田神宮宮庁、平成 27 年〕より加筆引用）

「享禄古図」で比定した建物を基準にして描かれた情報を特定したものを掲げる。

番号	比定建物等	「新絵図」 記載情報	「享祿古図」 記載情報	特筆事項
1	勅使殿	○	○	
2	輪蔵?	○	○	建物形状より比定
3	中之鳥居	×	○	
4	本宮御溝 (西側)	×	×	青海波を湛える表現は(30)と同様
5	内天神	○	○	
6	海蔵門	○	○	扁額が描かれている
7	神廐	○	○	柵がないことから絵馬の可能性はある
8	山王社	×	○	
9	五重塔	×	○	
10	東六社	×	○	
11	宮谷観音	×	○	
12	西六社 (除霊斎社)	×	○	
13	青衾社 (白衾社)	×	○	
14	新水上社	×	×	
15	供御所?・門?	○	?	
16	常行堂・不動院	×	○	
17	弁財天	×	×	現「みなも神殿」か
18	神宮寺本堂	○	○	
19	大福田社	○	○	
20	業師如来	×	×	
21	大黒天	×	×	
22	二重塔	×	○	
23	如法院	×	○	
24	鐘楼	×	○	
25	西堂	×	○	
26	馬場家屋敷	×	×	門外に神職らしき人物描写あり
27	田島家屋敷	×	?	水色の須鉾殿(瑞雲のようにも見える)が掛かっている
28	下馬鳥居	○	○	
29	下馬橋 (二十五丁橋)	○	○	東側に平橋あり
30	大宮御溝 (南側)	×	○	青海波を湛える描写は(4)と同様

番号	比定建物等	「新絵図」 記載情報	「享祿古図」 記載情報	特筆事項
31	八剣宮	○	○	
32	八子社	×	×	
33	徽社	×	×	
34	本地堂	○	○	
35	八剣宮大門	○	○	両脇扉には挟間らしき描写あり
36	清雲門	○	○	
37	泪川	×	×	
38	南新宮	○	○	
39	日割宮	○	○	
40	上知我麻社(源太 夫社)	○	○	
41	円福寺	×	○	
42	今道の町並み(西 端)	×	○	
43	市場	×	○	
44	中瀬の町並み	×	○	
45	中瀬の町並み	×	○	田中の町並みである可能性も考えられる
46	何らかの宗教儀礼 を行う人々	×	×	泪川(37)内側に4人。先頭人物は木碗とおぼしき「一膳 飯」を跪いて投げ持ち、その背後で童が泣いている
47	高位の神官	×	○	高位の僧侶(48)と参道を挟んで相対する
48	高位の僧侶	×	○	高位の神官(47)と参道を挟んで相対する
49	本宮御溝内側を通 行する聖俗の人	×	×	田島(東側)方面から下馬鳥居(28)方面へ歩んでいる
50	馬上の人物	×	×	馬の描写から「正統な絵画技法の心得がある人物」が関与 したとの指摘がある
51	回国聖	×	○	
52	南新宮を拝礼する 神官	×	×	
53	青衾社(白衾社) 鳥居	○	○	

「×」は記載がないことを示す



「熱田神宮境内図（享禄古図）」の中心に位置する「常行堂」と考えられる建物（『熱田神宮名宝図録—宝物から見る歴史と信仰—』〔熱田神宮宮庁、平成 27 年〕より加筆引用）



102 熱田神宮境内曼荼羅図 江戸時代 館蔵
 中世の熱田は、神宮の周囲に神職や商工業者が集住し、交通・流通の拠点となった。特に加藤氏の開発により、戦国期に町として発展する。

名古屋市立博物館所蔵「熱田神宮境内曼荼羅図」（名古屋市立博物館企画展「城からのぞむ 尾張の戦国時代」〔平成 19 年〕より引用）

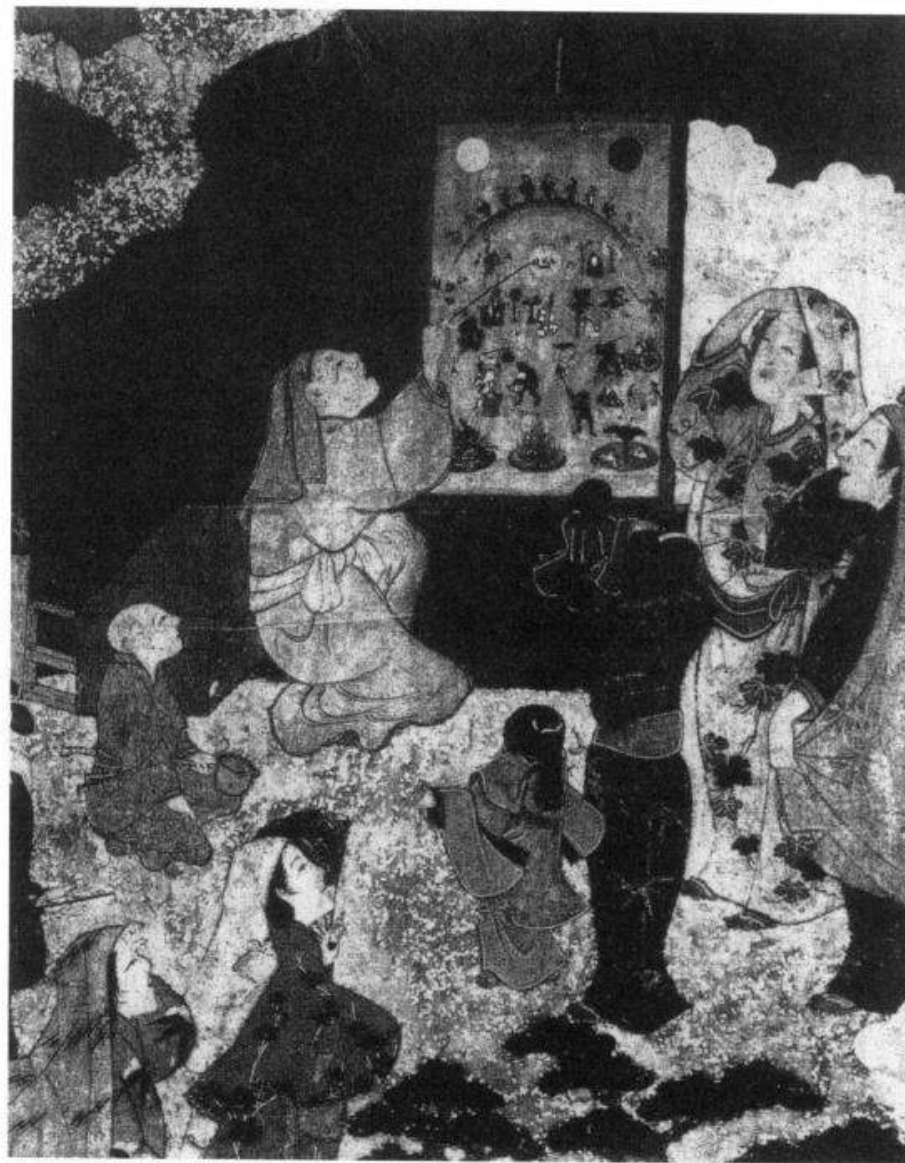
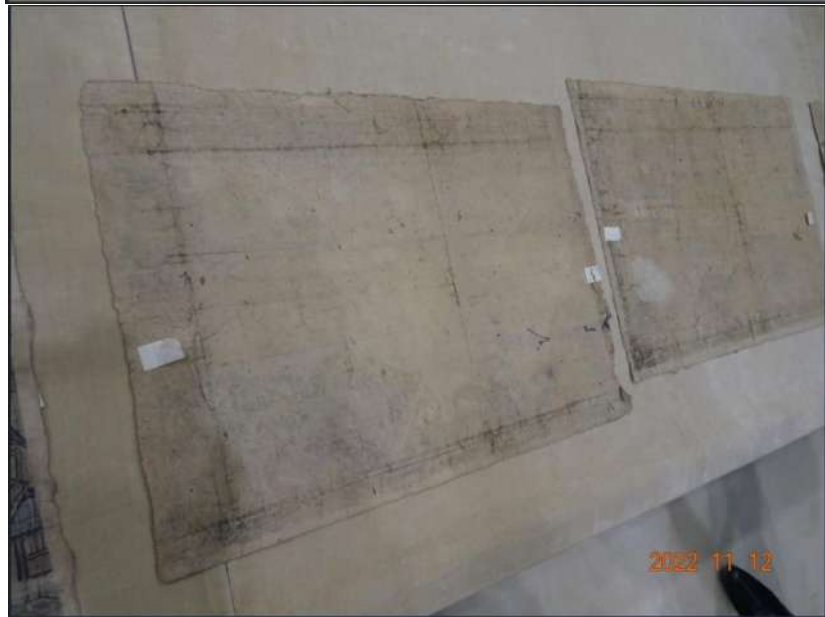


図1 フリア美術館蔵「住吉神社祭礼図」(部分)

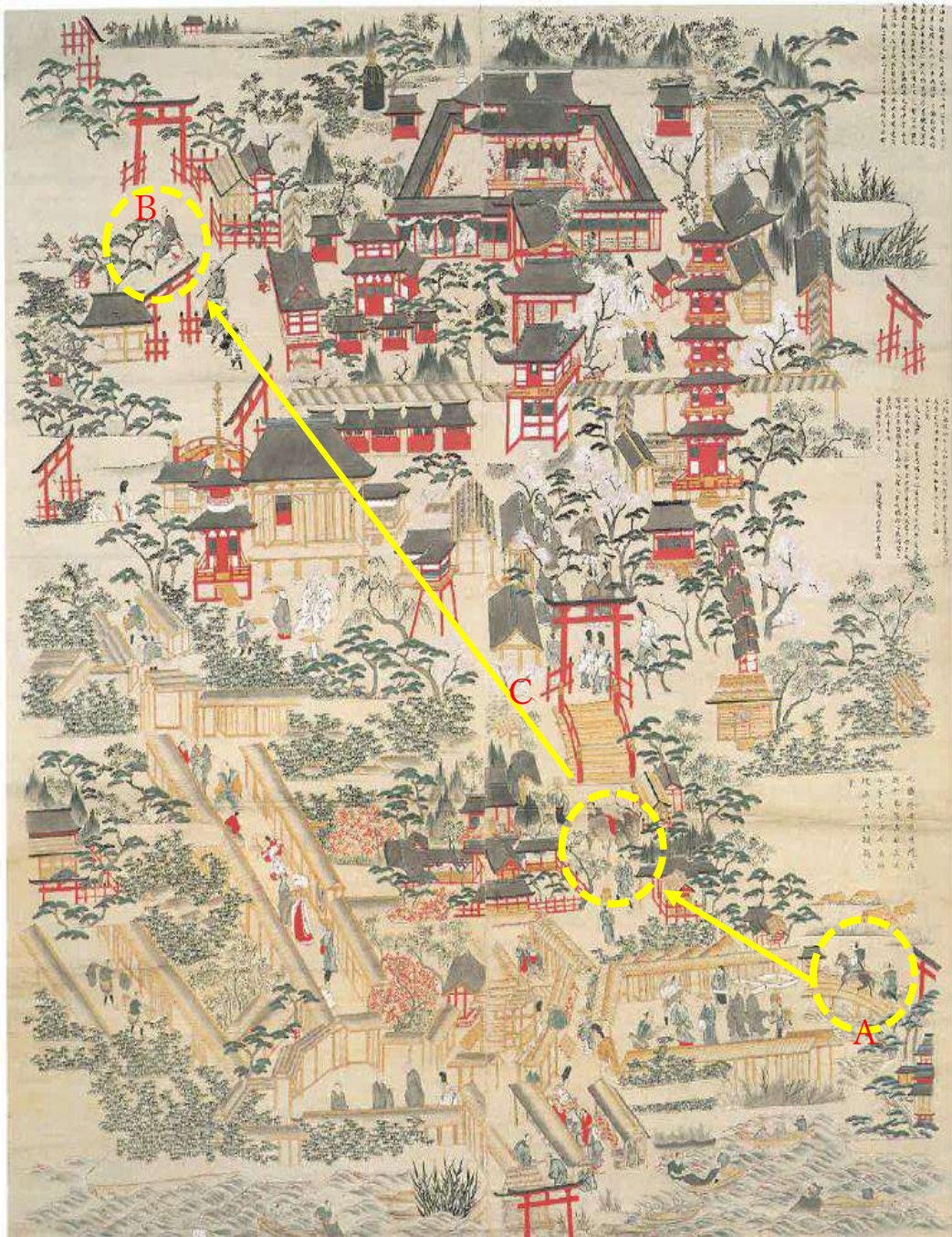
『熱田神宮古絵図(残闕)』写真(発表者調査時に撮影) 簡単に破れそうな程薄い。折跡から各紙は糊付された上畳まれていたと思われる。床等に広げて用いられたか？

林雅彦「絵解き(絵語り)と私一付・絵解き台本「熊野観心十界曼荼羅」『いすみあ(明大大学院教養デザイン研究科紀要)』(平成22年)より引用

●どのように使用されたか(成立背景と関連する問題)

●「熱田神宮境内図(享祿古図写)」に描かれた人々

・「馬上の人物(A・B)」と「裱着用の人物(C)」―熱田社へ参詣する人々の象徴なのか―



馬上の人物 A



馬上の人物 B



裱着用の人物C



・源太夫社（上知我麻社）前の「裱着用の人物D」―「鳥居前の名物」をあきなう者なのか―



うりものおほかる中に、御福餅となつて、小きあられのことき、四角なるもちをあなふ、これは、まい年、高桑氏なるひと、古来より、これをうるとぞ、 朴竹堂素外
 （「尾張年中行事絵抄」）



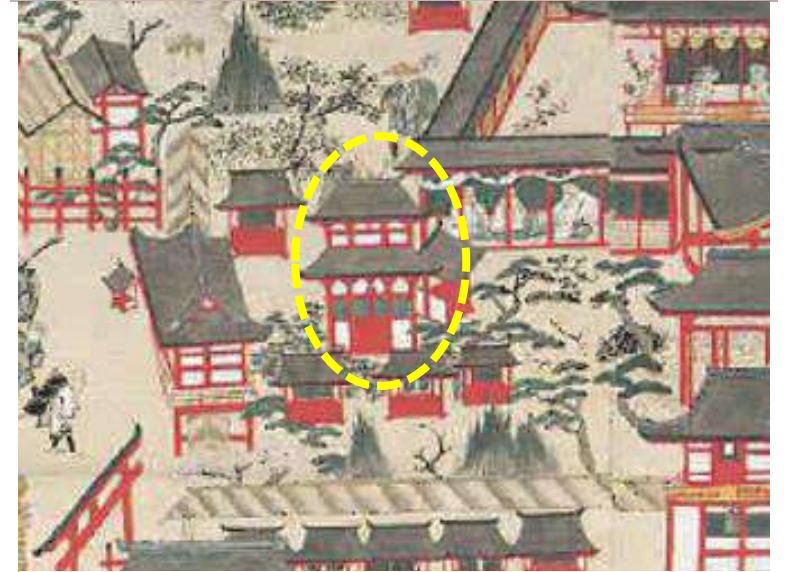
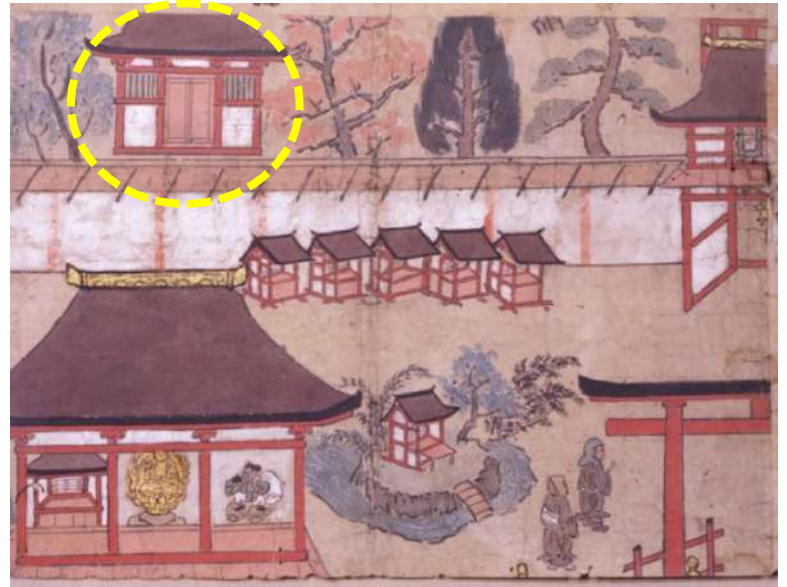
● 「熱田神宮古絵図（残闕）」に描かれた人々
・清雪門前で何らかの宗教儀礼を行う人々



・「椎の木東脇で拝礼する人物」——永く受け継がれた熱田社を拝礼する作法——

●その他特筆すべき描写

・「熱田神宮境内図（享禄古図写）」「熱田神宮古絵図（残闕）」に描かれ「輪蔵」と想定される建物

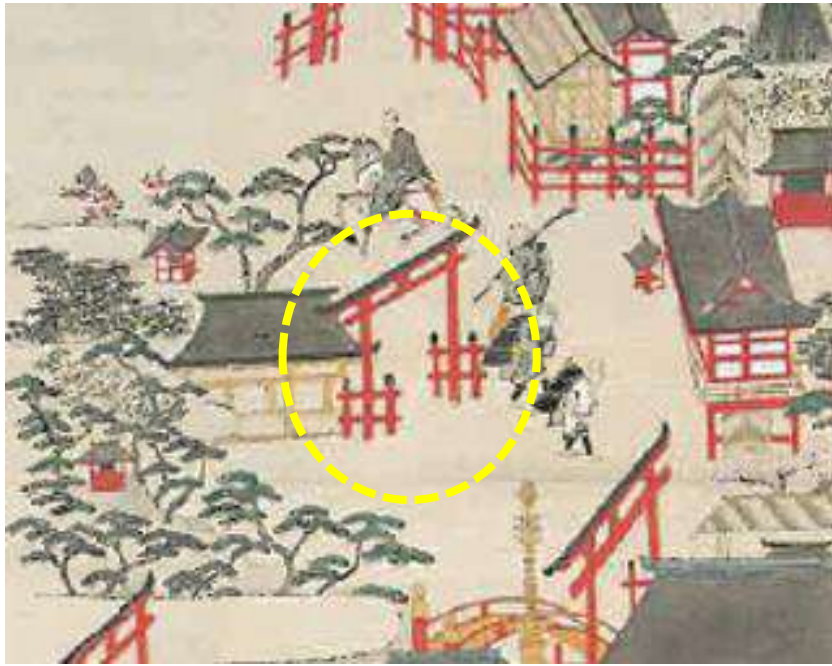


上：「熱田神宮古絵図（残闕）」

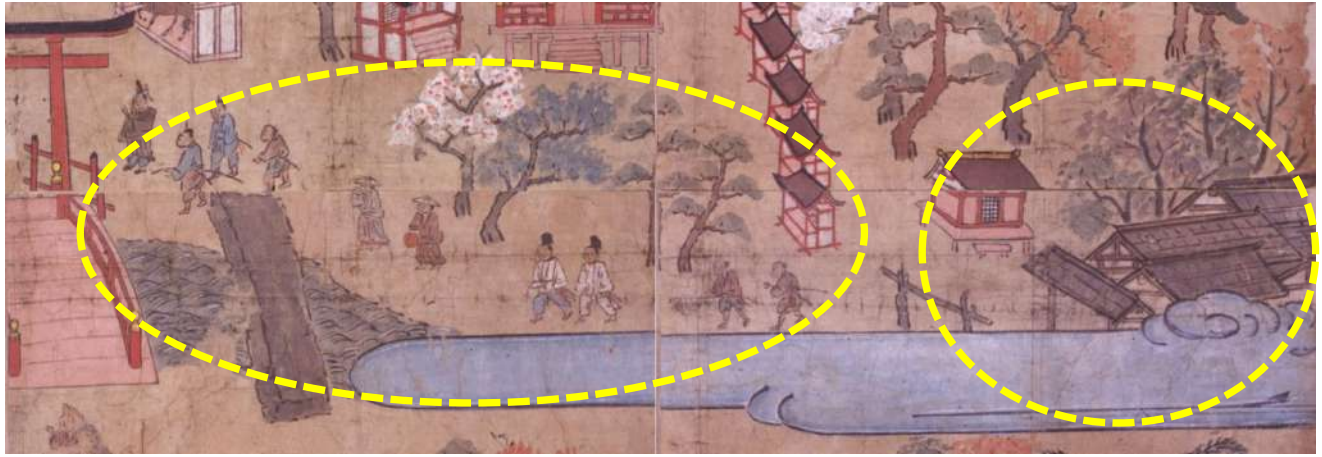
下：「熱田神宮境内図（享禄古図写）」

熱田社築地塀の内に仏教建築に類似した墓股の特異な建物が認められる

・「熱田神宮境内図（享禄古図写）」に描かれた「詳細不明鳥居」――「八所」鳥居以外の謎の鳥居――



- ・聖域内（本宮御溝内）を歩きかう世俗の人々
- ・水色スヤリカスミ東端の屋敷（祝師（権宮司） 田島家屋敷と想定） 中之鳥居脇の檜皮葺の門を備えた屋敷（惣検校（権宮司） 馬場家屋敷と想定）



「聖域内を歩きかう人々」と「水色スヤリカスミ東端の屋敷（コケラ葺と思われる門）」

- ・中之鳥居脇の檜皮葺の門を備えた屋敷（惣検校（権宮司） 馬場家屋敷と想定）



中之鳥居西側にある檜皮葺の門を備えた屋敷（門前に神官？）

● 「熱田神宮境内図（享禄古図写）」と「熱田神宮古絵図（残闕）」成立背景 ―主な相違点から―

・「享禄古図」が「再興絵図」とも伝世されてきた点、「残闕」が「享禄古図」に比べ明らかに古相であるという点、更には享禄年間の造営が勧進活動も含めてこれまで想定されていた以上に大規模な造営であったと思われる点、等から次の様な成立背景がある可能性が想定される。

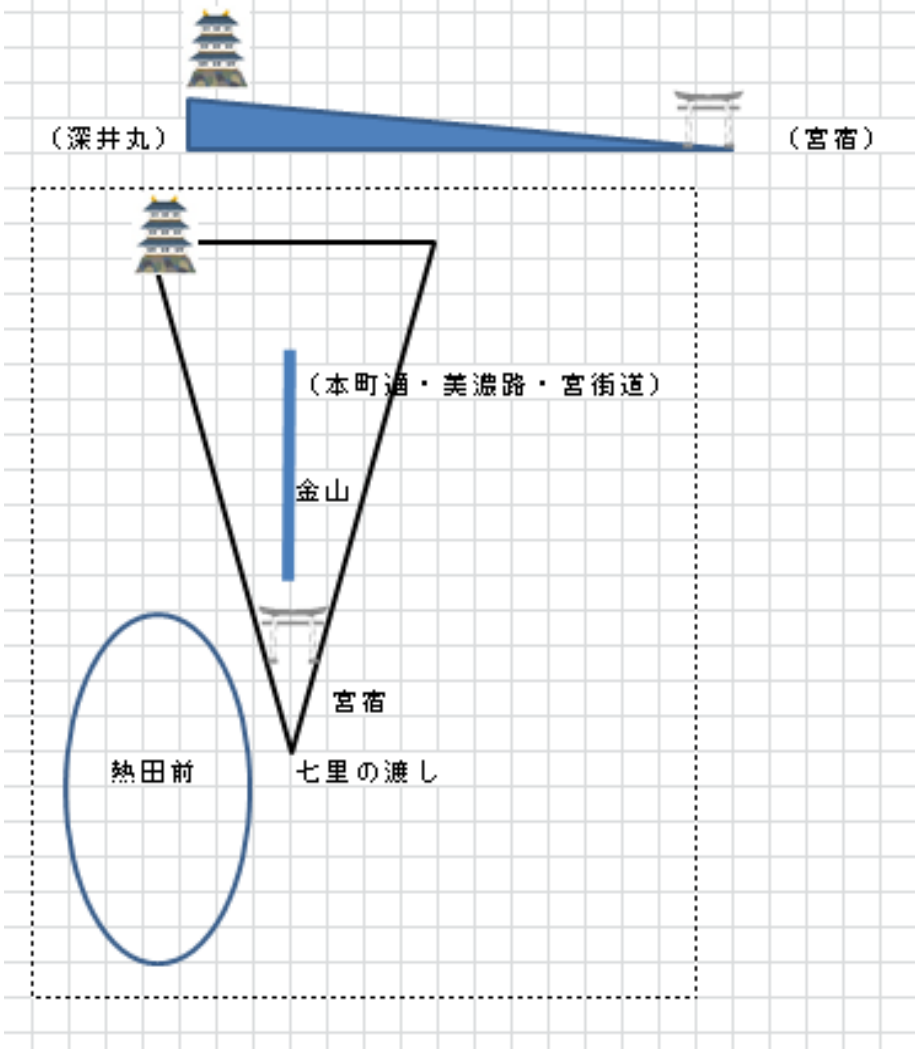
「残闕」

大規模な熱田社・神宮寺関連の造修に資する勧進活動を行うために、建築物が徐々に滅失しつつある熱田社・神宮寺の客観的な現状を客観的に記載し、来る造修事業への勧進活動の為に作成されたものである。

「享禄古図」

大規模な熱田社・神宮寺関連の造修が完了した証として造修がなされた建物を強調して作成されたものであり、聖域である熱田社・神宮寺の神聖性を強調した上で参詣作法を示すなど、人々を参詣へ誘いつつ、造修の事実を記録として後世に残す意図を含めて作成されたものである。

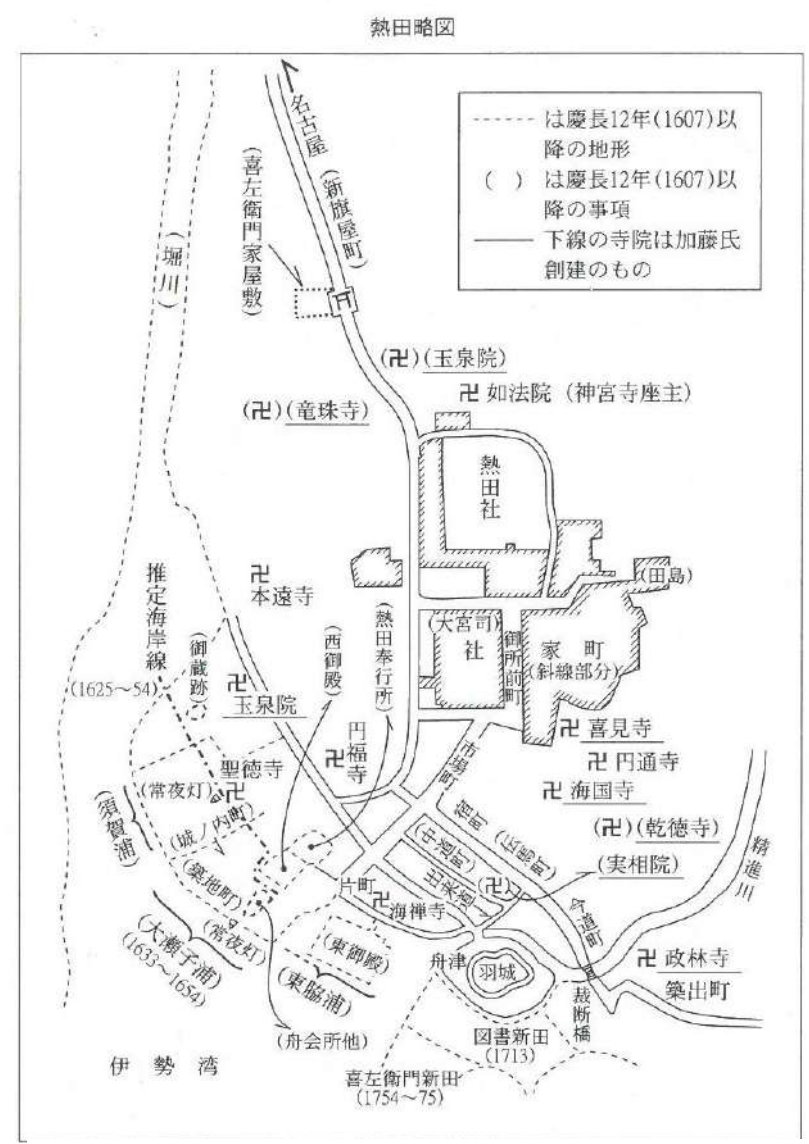
熱田台地模式図



●「清州越し」に伴う熱田の変貌

六、近世城下町「名古屋」の中の「熱田」とその後の展開

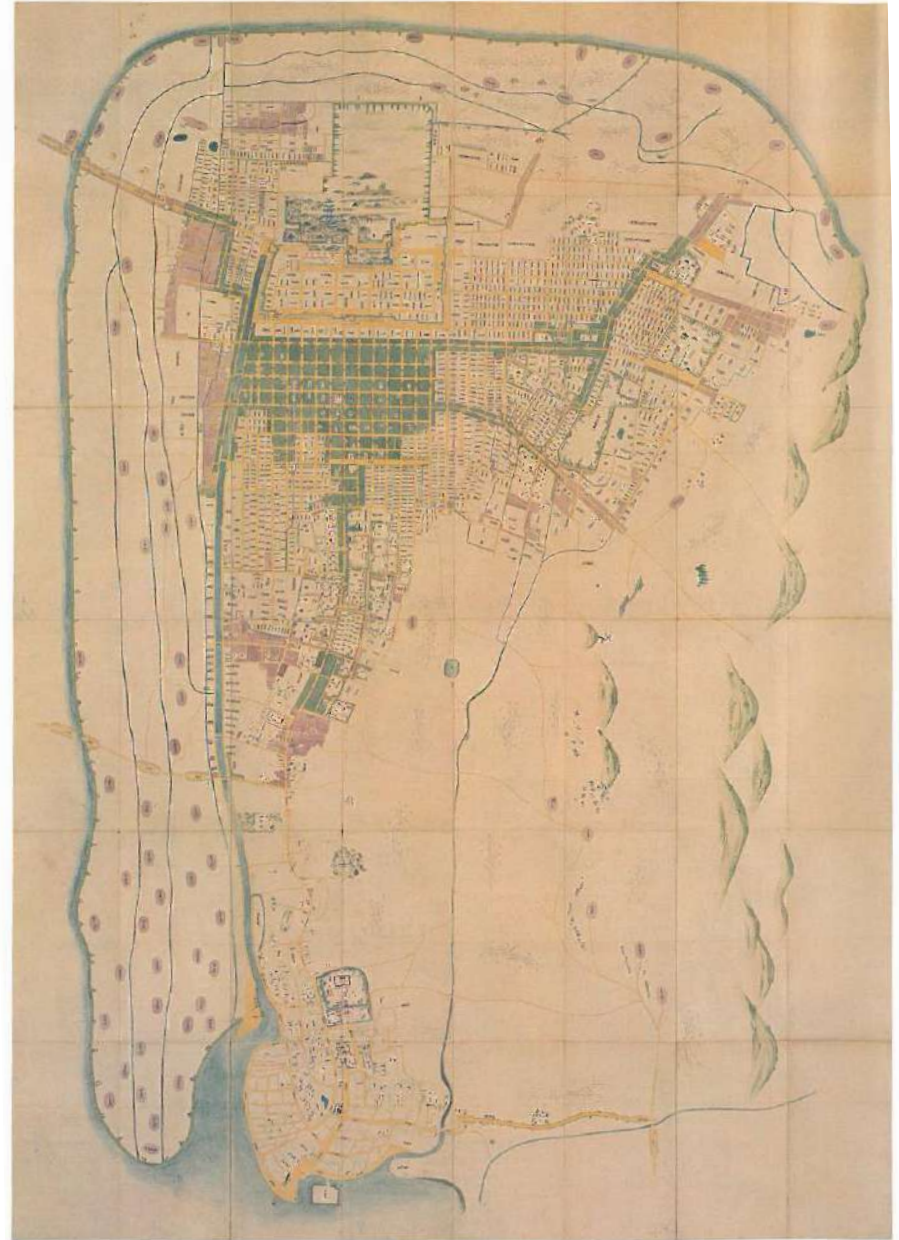
●「清州越し」以前の熱田



下村信博「戦国・織豊期尾張熱田加藤氏研究序説」(『名古屋市博物館研究紀要 14』名古屋市博物館、平成 3 年) より引用

↓この広大な伊勢湾に面した新田地帯が後の中京工業地帯の中心地となる。

新田略図



名古屋并熱田図 (徳川美術館蔵)

『名古屋市史資料編』より引用

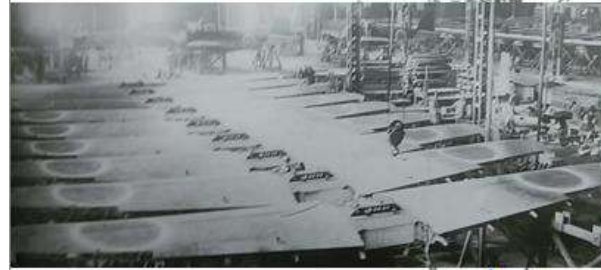
●熱田湊の終焉と名古屋港築港



↓中京工業地帯の成立↓【「Japan city plans」参照⇨終戦時の工場分布が判る資料】
(http://maps.lib.utexas.edu/maps/ams/japan_city_plans/より引用)



艦上爆撃機「蒼星」生産ライン



熱田空襲を記録する会編『紺碧の空が裂けた日 愛知時計・愛知航空機爆撃体験記録』（熱田空襲を記録する会、平成2年）より加筆引用、
写真は『名古屋市史資料編』等より引用したもの

- ・工業用地の立地、原材料・製品の搬出入の方途から見る工場分類（昭和十九年、大規模工場のみ）
- ①名古屋港沿岸を利用
名古屋造船・三菱重工業大江工場

- ②名古屋港～旧熱田港の沿岸を利用

- 愛知時計電機熱田工場・愛知航空機熱田工場・愛知航空機船方工場・住友軽金属・大同製鋼道徳工場

- ③新堀川運河を利用

- 岡本自転車工業・日本特殊陶業・愛知時計電機瑞穂工場・日本車両・中島飛行機熱田工場・大同製鋼熱田工場・名古屋造兵廠高蔵兵器製造所・名古屋造兵廠熱田兵器製造所（昭和十五年に航空機部門は「陸軍航空工廠」として東京都立川市に移転）

- ④中川運河を利用

- 愛知航空機永徳工場

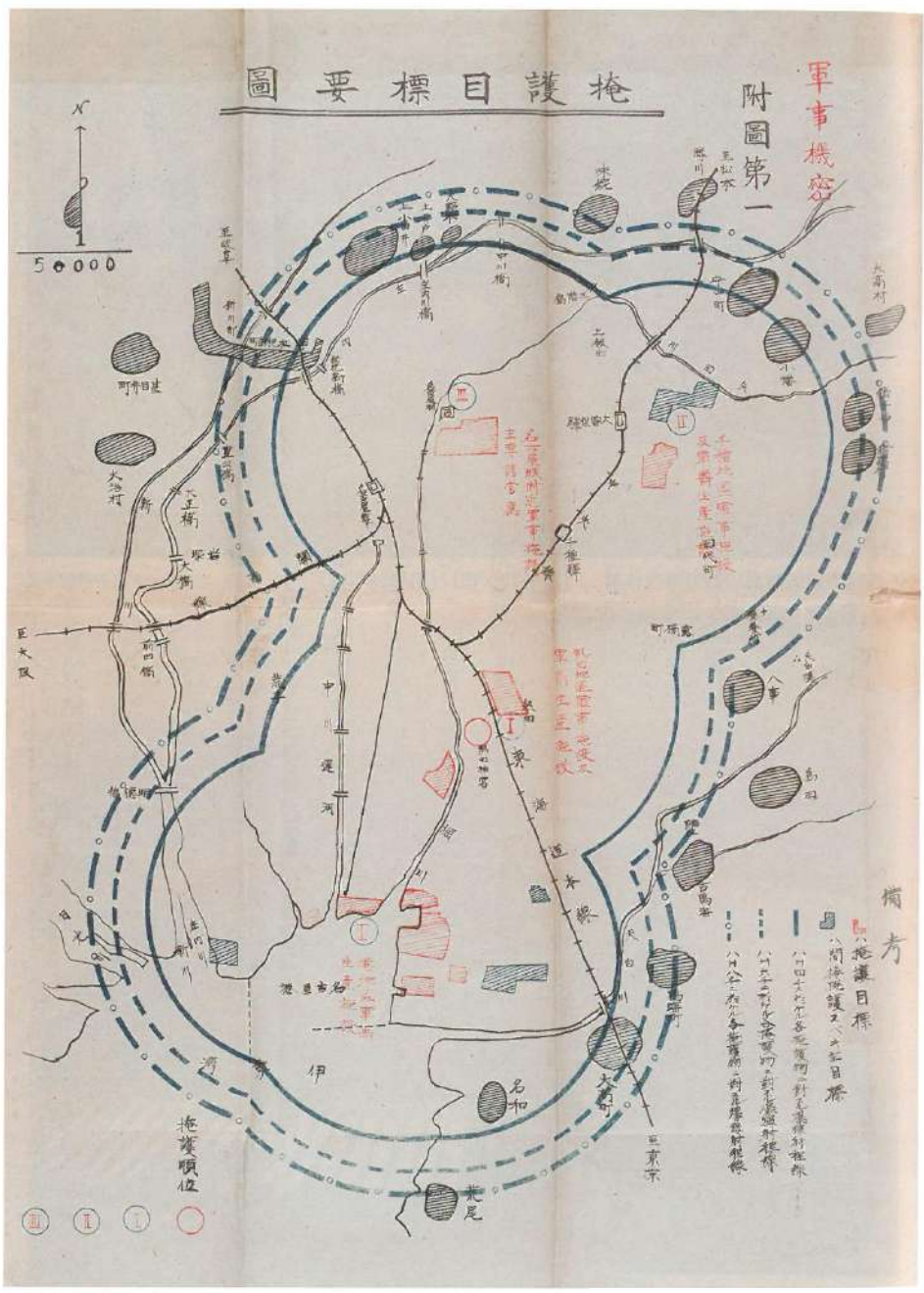
- ⑤東海道線を利用

- 豊和工業・三菱重工機器・日本陶器・三菱重工業瑞穂工場・名古屋螺子・高野精密機械工業・岡本工業笠寺工場・中央発条

- ⑥中央線を利用

- 三菱電機・名古屋造兵廠千種兵器製造所・三菱発動機大幸工場

昭和十六年作成「軍事機密名古屋防空隊戦闘計画」を見ると前記工場所在地帯がすつぽりとなる
↓名実ともに中京工業地帯の中心地であることが判る。



掩護目標要圖 『軍事機密名古屋防空隊戦闘計画』（昭和十六年）

『名古屋市史資料編』より引用

(1) 空襲による工業別被害面積(平方米)

工業別	空襲前面積	被害総面積	被害率%
航空機工業	3,519,817	1,785,667	50.7
兵器工業	2,030,792	761,586	37.5
金属工業	3,688,414	1,213,109	32.9
その他の工業	1,950,335	597,256	30.6
計	11,189,358	4,357,618	38.9

- ① 航空機(三菱航空機・愛知航空機・名古屋造兵廠熱田兵器製造所飛行機部) 従業員数約十万人
- ② 主要兵器(陸軍名古屋造兵廠等) 従業員数約六万人
- ③ 金属・電気・機械その他の工場 従業員数約九万人
- ④ 航空機工場敷地面積 約三五〇万平米
- ⑤ 主要兵器工場敷地面積 約二〇〇万平米
- ⑥ 金属・電気・機械その他の工場 約二〇〇万平米

熱田空襲を記録する会編『紺碧の空が裂けた日 愛知時計・愛知航空機爆撃体験記録』(熱田空襲を記録する会、平成2年)より引用

第二表 名古屋地区における主要工場(1944年12月現在)昭和19年

	地図上のNo	目標No	工場名と所在地	従業員数	備考
航空機工場	1	193	三菱発動機第4工場 (大幸町)	21,639	発動機
	2	194	三菱航空機 第3組立工場(海軍) (大江)	15,000	一式陸攻
	3	194	三菱航空機 第5組立工場(陸軍) (大江)	13,500	陸軍機
	4	—	” 第11組立工場 (道徳)	4,620	”
	5	30	” 第5組立工場の一部 (瑞穂)	1,200	”
	6	28	愛知航空機 船方工場 (船方)	3,535	基 星
	7	26	” 熱田工場 (”)	5,828	発動機
	8	41	” 永徳工場 (永徳)	20,630	基 星
	9	37	岡本工業 笠寺工場 (笠寺)	5,690	ブレーキ
	10	7	矢島工業 (守山)	1,669	新陸攻機
	11	25	中島飛行機 熱田工場 (熱田)	1,065	
		小 計	94,376		
主要兵器工場	12	27	愛知時計電機 船方工場 (船方)	15,200	海軍兵器
	13	21	” 瑞穂工場 (瑞穂)	2,101	
	14	23	” 明徳工場 (明徳)	1,200	
	15	2	名古屋造兵廠 鳥居松工場 (鳥居松)	7,900	陸軍兵器
	16	14	” 千種工場 (北千種)	6,180	
	17	1	” 鷹来工場 (鷹来)	5,700	
	18	20	” 熱田工場 (熱田)	5,066	
	19	18	” 高蔵工場 (高蔵)	3,255	
	20	9	豊和重工業 (須ヶ口)	5,252	
	21	34	高野精密工場 (笠寺)	3,892	
	22	8	旭機械工業 (”)	1,368	
			小 計	57,114	
金属・電気・機械・その他の工場	23	31	住友金属工業 (千年)	11,357	プロペラなど
	24	38	” 鳴海工場 (鳴海)	1,863	
	25	15	三菱発動機 第10工場 (岩塚)	9,580	
	26	6 a	” 第22工場 (大曾根)	4,000	
	27	10	三菱重工業 第12工場 (西枇杷島)	6,170	
	28	43	大同製鋼 星崎工場 (星崎)	8,770	
	29	35	247-C ” 築地工場 (築地)	4,555	
	30	24	247-B ” 熱田工場 (熱田)	2,125	
	31	3	1753 神戸製鋼所 (中丸町)	6,828	
	32	4	1146 大隅鉄工所 森野工場	2,272	
	33	6	1797 ” 上飯田工場	1,193	
	34	33	— 名古屋螺子製作所	1,700	
	35	36	1799 豊田機械工業 第2工場	1,400	
	36	44	— 中央発条 鳴海工場	1,268	
	37	16	242 岡本工業 昭和工業	1,200	
	38	11	254 三菱電機 (大曾根)	9,020	
	39	19	1171 日本碍子 } 瑞穂	1,990	
	40	17	— 日本特殊陶業 } 瑞穂	1,881	
	41	22	241 日本車輛製造 (熱田)	4,247	
	42	42	2163 名古屋造船	3,000	
	43	29	— 愛知化学工業	2,799	
	44	13	1153 日本陶器	2,228	
	45	5	— 大同機械工業	1,551	
		小 計	90,997		
		合 計	242,487		

(注)

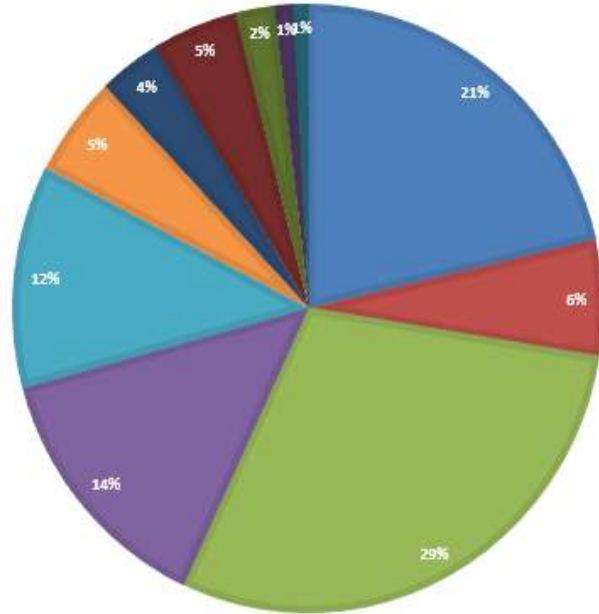
一、アメリカ戦略爆撃調査団報告書より抜粋。
 二、主として従業員千名以上の工場のみを示す。
 三、は米軍の作戦計画に示されたものである。

● 「名古屋地区における主要工場」及「空襲による工業別被害面積」より見た名古屋軍需産業

●終戦時までの全国の航空機体・航空エンジン生産数より見た名古屋

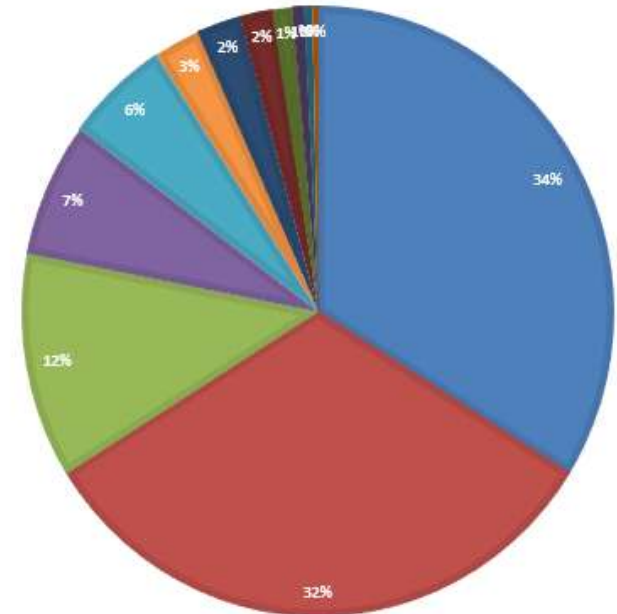
機体生産数割合(総計82,009機 昭和1-20年)

- 三菱重工業(愛知・大江)
- 川崎航空機工業(岐阜・岐阜)
- 川西航空機(兵庫・宝塚)
- 富士飛行機
- 愛知航空機(愛知・船方)
- 立川飛行機(東京・立川)
- 九州飛行機(福岡・福岡)
- 昭和航空機(東京・立川)
- 中島飛行機(群馬・太田)
- 日本国際航空機工業(東京・立川)
- 日立航空機(東京・立川)



航空エンジン生産数割合(総計211,527台 昭和1-20年)

- 三菱重工業(愛知・大幸)
- 日本飛行機(東京・立川)
- 愛知航空機(愛知・熱田)
- 日本国際航空機工業(東京・立川)
- 富士飛行機
- 中島飛行機(群馬・太田)
- 日立航空機(東京・立川)
- 九州飛行機(福岡・福岡)
- 日立航空機(東京・立川)
- 川崎航空機工業(兵庫・明石)
- 立川飛行機(東京・立川)
- 石川島航空機工業(東京・佃)
- 昭和飛行機(東京・立川)



機体メーカー	機体生産数割合(総計82,009機 昭和1-20年)
三菱重工業(愛知・大江)	17,531
愛知航空機(愛知・船方)	5,068
中島飛行機(群馬・太田)	24,100
川崎航空機工業(岐阜・岐阜)	11,348
立川飛行機(東京・立川)	9,690
日本国際航空機工業(東京・立川)	4,410
川西航空機(兵庫・宝塚)	2,851
九州飛行機(福岡・福岡)	3,797
日立航空機(東京・立川)	1,727
富士飛行機	869
昭和航空機(東京・立川)	618
計	82,009

発動機メーカー	航空エンジン生産数割合(総計211,527台 昭和1-20年)
三菱重工業(愛知・大幸)	71,657
中島飛行機(群馬・太田)	68,260
川崎航空機工業(兵庫・明石)	25,228
日本飛行機(東京・立川)	15,057
日立航空機(東京・立川)	11,969
立川飛行機(東京・立川)	5,396
愛知航空機(愛知・熱田)	5,068
九州飛行機(福岡・福岡)	3,797
石川島航空機工業(東京・佃)	2,286
日本国際航空機工業(東京・立川)	1,322
富士飛行機	869
昭和飛行機(東京・立川)	618
計	211,527

統計資料等より発表者作成